

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 学校給食費の無償化について (20分)</p> <p>文部科学省は、国会答弁で公立小中学校の学校給食の無償化に関する全国調査を今年度、行う方針を明らかにしました。</p> <p>学校給食の無償化は、58自治体が小中学校、3自治体が小学校で実施しているとの事で、増加傾向にあります。今年度、群馬県渋川市では、これまでの市が3割を負担した上で第3子以降は無料だったものを完全無償化しています。また、脚折雨乞行事でつながりのある板倉町でも無償化に踏み切っています。</p> <p>これらの自治体が無償化に踏み切った理由や子どもへの影響などについて調査・分析することは、まだ無償化していない自治体にとって貴重な資料となるものと考えられます。</p> <p>鶴ヶ島市の給食費は、平成27年度決算で、288,651,772円の収入済み額、収入未済は3,858,406円、不能欠損は4万円で、債権放棄しています。</p> <p>完全実施では、3億円近い財源が必要ではありますが、検討する意義があると思います。</p> <p>また、鶴ヶ島市は、学校給食会計を校長等の個人口座で出し入れをする私会計処理から公会計処理にしております。私会計は、全国でまだ3分の2が行っておりますが、地方自治法第210条の「地方自治体が集めて使うお金は歳入歳出(公会計)処理をしなければならぬ」との定めに適うものであり、債権管理についてもその放棄をする際に議会の議決を要さないなどの条例を整備しております。</p> <p>改めて、その意義や課題についても確認したいと思います。</p> <p>(1) 給食費無償化への動向をどう考えますか。</p> <p>(2) 給食費を無償化した場合の影響について</p> <p>(3) 子育て支援策として、給食費無償化は検討に値すると考えますが、市としての考えは。</p> <p>ア 完全ではなくとも何割かを負担する形での実施について</p> <p>イ 第3子以降については、無償化する形での実施について</p> <p>(4) 給食費の公会計化の経緯と成果について</p> <p>(5) 給食費徴収の徴収率向上の取組と私債権としての債権管理の状況と課題について</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>2 広がれ、まちの無電柱化 (20分)</p> <p>平成28年12月臨時国会で、いわゆる無電柱化推進法が成立、世界でも例を見ない電柱大国日本に無電柱化の風が吹き始めています。</p> <p>全国的な成功例の一つに川越市の蔵造りの町の無電柱化がありますが、景観を害するだけではなく、歩行者通行を妨げ、災害時には、緊急車両の通行を妨げる恐れがあるなど弊害が多い現状を改善しようとする自治体は全国で460自治体に及ぶという日経グローバル誌の独自調査の結果もあります。</p> <p>鶴ヶ島市は、この調査では、過去に実施したことがあり、現在は実施しておらず、来年度以降は未定と回答しております。</p> <p>無電柱化の一番の課題は、コストがかかる事であり、地上機器の置き場の確保など地域住民との連携も課題です。</p> <p>国も設置基準の緩和を行い浅層埋設方式、小型ボックス活用埋設方式などが可能となるなど、徐々にですが、コスト削減がなされてきています。</p> <p>また、きっかけとして地域伝統の祭りの山車を通すために、伝統的な街の景観を生かすために、川越のほか、京都や金沢などでも無電柱化に取り組み、成果を挙げています。</p> <p>(1) 当市の取組の状況について</p> <p>(2) 努力義務である無電柱化推進計画について</p> <p>ア 埼玉県を取組状況について</p> <p>イ 鶴ヶ島市を取組状況について</p> <p>(3) 道路法第37条の改正に伴う道路の占用の禁止又は制限について、鶴ヶ島市と周辺自治体の状況について</p> <p>(4) 脚折雨乞い行事の龍蛇の通り道では、電線と電柱が妨げとなっています。無電柱化の検討について。</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>3 広報のリニューアルを</p> <p>広報つるがしまが5月号から少し変わりました。特集や市政情報のページの余白が増えて、2色刷りですが、市政情報は、色を抑えています。</p> <p>また、1月号は高倉の獅子舞、2月号は成人式の写真、3月号は、駅伝を走る富士見中学校の生徒の全面写真が表紙に使われ、昨年9月号の雨乞い行事の全面写真とともに印象深いものでした。</p> <p>4月号からは、戻ってしまいましたが、いろいろと工夫をしようとしているのが分かります。</p> <p>しかし、今までの広報の流れを変えられないもどかしさを感じざるを得ません。</p> <p>紙の質を少し抑えるなど工夫し、低予算でフルカラー化した実例なども参考に、内部の調整、前例踏襲など変化を求めないと言われる自治体という縛りを乗り越え、変える時は、ドラスティックに変えるべきではないでしょうか。</p> <p>(1) モノクロの広報紙を低予算でカラーにする取組を。 (2) 挿絵を見直し、ピクトグラムや写真の活用を。 (3) AR(拡張現実)の活用について、UDフォントの使用について (4) 各部局から広報担当へ記事のネタの提供をする仕組みについて (5) 市民や団体との座談会やインタビューを記事にするなど協働を進めることについて</p>	市長